

病理診断センターの 紹介

病理診断センター センター長

大林 千穂

奈良県立医科大学 昭和57年卒

- 日本病理学会専門医
- 日本臨床細胞学会専門医・指導医
- 病理専門医研修指導医
- 細胞診教育研修指導医

■ 病理診断科って？

迂遠ですが、まずは病理の世界をご紹介します。病理といえば、多くの先生方が顕微鏡をみながら色鉛筆でスケッチした実習を思い出されるでしょう。病理学は基礎と臨床の間に在って、学生が初めて疾患名に触れる学問で、教育や研究を本分とするのは大学の基礎に配置された病理学領域の講座です。この様に病理=大学基礎のイメージが強いですが、多くの病理医は病院で診療に従事しており、2008年に漸く病理診断科が標榜科となりました。その年に亡くなったマイケル・クライトンは『ジュラシックパーク』の著者として知られていますが、ハーバードを卒業した医師でもあり、研修医時代に書いた医療推理小説『緊急の場合には』以降、分子生物学的テクノロジーが彼のオハコとなりました。このミステリーの主人公は病院勤務の病理医ですが、面白い場面があります。「何科？」との刑事の問いに「僕は患者を診ていない」、「研究を

しているのか？」「いや、僕は病理医です」と答えています。何とも噛み合わない会話ですが、我々病院で働く病理医は研究者ではなく臨床医だけど、患者と対面している訳ではない、という状況を良く表しています。勿論、現在の米国では病理診断科は十分認知されていますが、日本ではまだまだです。先生方は組織や細胞を採取した患者に対して「検査します」あるいは「病理医に診断を依頼します」と説明されているのでしょうか？患者さんの多くは検体を採取した医師が、何かの機械に入れれば結果が出ると思っています。病理の結果が出るまでには、熟練した臨床検査士が検体を適正に処理、プレパラートを作製し、病理医が顕微鏡で観察して診断する、プロの連携プレーが必要です。生検検体は数ミリ、プレパラートの厚さは4ミクロンです。我々はとてもデリケートな「患者の一部」を診療しています。

■ これからの病理診断

現在、腫瘍領域においては多くの分子標的治療薬が用いられ、各々の薬剤に対応するコンパニオン診断 (CDx) が求められます。CDx は免疫組織化学や遺伝子検査ですが、標準治療がない、または終了した場合には次世代シーケンサー (NGS) で数百の遺伝子を一気に調べる「がん遺伝子パネル検査」が保険診療で行われています。しかし、この検査により治療薬の存在する (druggable) 遺伝子異常が検出されるのは 10%、さらに実際に治療まで持っていかけて、奏功が得られる患者さんは多くはありません。医療経済面からは疑問もあろうかと思いますが、近未来の日本の医療の為に必須と理解しています。ゲノム医療は、2015 年に当時のオバマ大統領が一般教書演説において「Precision Medicine」を高らかに宣して以来、世界の潮流となっているのです。我々の病理診断センターにおいても、今や遺伝子検査へのエフォート、とくに検査技師の負担は増加しています。検査そのものは外部委託ですが、良質かつ十分量の核酸を得るために検体を管理し、患者さんにとって最良の治療選択が出来るよう努めています。将来的には、NGS 検査は容易で安価な検査になるでしょう。さらに、組織よりも低侵襲性の液性検体 (血漿や尿など) を使用する liquid biopsy での遺伝子、分子レベルの検査も

広がるでしょう。それでは病理診断科に未来はないのか？否、病理は治療法の進歩とともにダイナミックに変化し、治療方針を決める重要な診療情報を提供してきました。形態、蛋白、遺伝子を理解し、全身疾患に通じ、臨床所見を読み取る総合力が、病理医にとって最も重要であることになりました。私が研修医であった 40 年前には解剖が多かったこともあり、圧倒的に男性の領域でしたが、現在は勉強好きの女子学生の興味を引いているようで、前任の奈良県立医科大学病理診断学講座は女性優位でした。芦田愛菜さんが某有名中学に入学した際の“将来の夢は病理医”との発言に、伝統ある病理学会は大いに湧いたものです。病理医と女優の“究極二刀流”などといったことになれば、昔は「貧乏、酒飲み、変人」と揶揄された病理医のイメージがひっくり返る、それを楽しみにしています。

■ 病理診断センターの特徴

病理診断センターは、診療センターの一つとして 2014 年 4 月に設立されました。細胞診、生検や手術検体の組織診、手術中の迅速診断、病理解剖診断に必要な病理標本の作製から診断に至るまでの全ての業務を担っています。医行為である病理診断は病理専門医 6 名 (内非常勤 4 名) が担当しています。標本作製や細胞診を担当する技術

部門は、臨床検査技師 8 名 (内非常勤 2 名) を配し、細胞診は国内・国際細胞検査士の資格取得者 (7 名) が担当し、全例ダブルチェック、トリプルチェックを行っています。また、ベッドサイド細胞診も行っており、特に乳腺穿刺細胞診に関しては、その場で染色し、病変からの十分な細胞が採取できたか、異型細胞が含まれるかを判断し、診断率の向上を図っています。標本作製から診断入力に至るまでの過程を一元的にバーコード管理し、検体取り違い防止と作業の効率化を図っています。また、免疫染色は自動化しており、約 80 種類の抗体を保有し、迅速な対応が可能となっています。二重免疫染色、in situ hybridization 法など、高度な染色技術にも積極的に取り組んでいます。乳腺センチネルリンパ節に関して術中に転移の有無を検出する OSNA 法を全国的にもいち早く導入し、今年度は最新式の RD-200 を更新しました。



RD-200

■ 病理診断センターの実績

2021 年度の実績として、組織は、生検 3,109 件、手術材料 1,802 件、人間ドック 314 件、健診 277 件、他院からの持ち込み標本の診断 (セカン

ドピニオン) 303 件、合計 5,805 件です。細胞診は 5,757 件、術中迅速検査 552 件、病理解剖 7 症例となっています。また、これらの検査に付随して、免疫染色 1,318 件、遺伝子検査 332 件が行われています。自動免疫染色装置導入後より免疫染色の件数が増加傾向を示し、遺伝子検査も外注マルチパネル検査導入により増加しています。これらの検査は、今後も更なる増加が予想されます。

我々は初期研修医必須項目である CPC (Clinico-Pathological Conference) も指導しており、さらに悪性リンパ腫、乳腺、呼吸器、消化器など各科とのカンファレンスやカンサーボードにも参加しています。今後は、病理医や臨床検査士、細胞検査士の育成にも力を注ぎたいと考えています。これからも各科との連携を深め、地域の先生方、ひいては患者さんの信頼に答える病理診断センターを目指してまいりますので、ご支援よろしくお願いたします。



開業医探訪

Vol.67

中山内科クリニック

今回の開業医探訪は、阪神春日野道から北へ。

子どもから大人まで総合診療に取り組んでいる『中山内科クリニック』へ訪問致しました。

— 診療を開始されてどれくらいになりますか？

開業場所を検討するなか、三宮に近く人情味あふれたこの地域に決めて平成 30 (2018) 年 6 月より診療を始めました。私自身神戸で生まれ育ち、父が中央区で開業していましたので、大変親しみを感じています。

— どのような患者さんが来院されますか？

40 代・50 代を中心に比較的若年の方が来院されてます。基礎疾患があっても、かかりつけ医を持っていなかった方が初診で来られるケースが多いと感じています。院内にはキッズスペースを設けており、お子さんと一緒に来院頂けるようになっています。また、2歳からですが診療も行っております。皮膚疾患にも対応し身近なクリニックとして総合的な診療に取り組んでいます。より専門的な治療が必要と判断した場合は、他院とのスムーズな連携を図っています。

— 診療にあたり心掛けていることは何ですか？

多くの患者さんが病気・不安を抱えながら来院されています。私自身も心配性なところがありますので、患者さんの気持ちに寄り添いながら不安を取り除けるように努めています。他方で、病気の理解等にあたり厳しくお話ししないといけない場面もあります。状況に応じて柔軟に対応しています。

— ひとこと

診療を始めて 5 年目、クリニックとしてようやく落ち着いてきたと感じています。これからも、スタッフ一丸となって、子どもから高齢の方まで幅広く診療、またデリケートな問題に悩む女性の方からも気軽に相談頂けるようなクリニックを目指し、地域医療に貢献したいと考えております。

中山内科クリニック

〒651-0077
神戸市中央区日暮通 3-1-1 トミーハイツ 1F
TEL: 078-271-7116
院長: 中山 陽子

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	/	○	○	○	/
15:30~18:30	○	○	/	○	○	/	/

休診 水曜、土曜午後、日曜、祝日

今年度の地域医療連携交流会につきましても、Web (Zoom) で開催することに致しました。是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

Web
開催

日時 2022年10月20日(木)
18時30分～20時

1. 開会のあいさつ 院長 東山 洋
2. 講演 座長：地域医療連携センター長 鈴木 雄二郎
- ①『**病理解剖の果たす役割**』
病理診断センター センター長 大林 千穂
- ②『**乳がん診療の現在地**
～ますます重要になる乳がんチーム医療～』
乳腺センター 副センター長 松本 元
3. 閉会のあいさつ 地域医療連携センター長 鈴木 雄二郎

申込方法 地域医療連携室までお問合せください。

備考 日本医師会生涯教育単位 1.5 単位申請しております。

お問合せ 地域医療連携室 078-261-6739 (直通)

医師の異動

新入職医師 (10月1日付)

診療科	氏名
総合内科	増田 光輝
総合内科	藤田 泰佑

退職医師 (9月30日付)

診療科	氏名
総合内科	埴 信人
総合内科	中村 航大
総合内科	松本 夏鈴
消化器外科	原田 嘉一郎

Contents

- 病理診断センターの紹介
- 開業医探訪
- インフォメーション

■神鋼記念病院理念

公益性を重んじ、質の高い医療を通して皆様に愛される病院を目指します。

■基本方針

1. 快適な医療環境と医療設備を整え、安全で質の高い医療を提供します。
2. 患者さんの人格や価値観を尊重し、プライバシーを守ることを約束します。
3. 断らない救急医療を目指し、地域社会の信頼と期待に応えます。
4. 地域の医療機関や行政との連携を密にし、切れ目のない医療サービスの提供に努めます。
5. 高い医療技術を持った人間性豊かなスタッフを育成します。

社会医療法人神鋼記念会
神鋼記念病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 1-4-47

TEL:078-261-6711 (代表)

FAX:078-261-6726

URL:https://shinkohp.jp

発行責任者：理事長 山本 正之

編集責任者：神鋼記念病院広報委員長

松本 元

講演会などの
詳しい情報はこちらから!!

神鋼記念病院

https://shinkohp.jp